

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演（1日目）実施計画書

制作団体名	一般社団法人こども映画教室
公演団体名	こども映画教室

内容
<p>【メインプログラム（本公演）】 映画『お早よう』（1959年／小津安二郎監督）を鑑賞する。 映画鑑賞後、チーム（1チーム5人程度）に分かれ、みんなで『お早よう』の世界をマップにして整理、映画の理解を深める。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>※時間は学校ごとに異なります 8:30～8:40 はじまりの挨拶 8:40～10:15 『お早よう』鑑賞（94分） 10:15～10:25 休憩 10:25～11:10 『お早よう』マップ作成（45分～60分） 11:10～11:35 明日の説明</p>

派遣者数
17名

学校における事前指導
特になし

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ（2日目）実施計画書

制作団体名	一般社団法人こども映画教室
公演団体名	こども映画教室

演目
【ワークショップ】 「iPadで映画を撮影してみよう」 1チーム（5人程度）に分かれて、1チーム1台のiPadを使用して撮影を体験する。

派遣者数
17名

タイムスケジュール（標準）
※時間は学校ごとに異なります 13:30～13:40 はじまりの挨拶 13:40～13:50 映画の会話シーンを見てみよう（映画の抜粋） 13:50～14:00 ミッションカードを使って、色々な角度から撮影してみる 14:00～14:15 「iPadで映画を撮影してみよう」（説明） 14:15～14:55 「iPadで映画を撮影してみよう」（撮影・編集）（40分） 14:55～15:00 おわりの挨拶・まとめ

実施校への協力依頼人員
撮影時に子どもたちの安全確保のために各チームブロックごとに1名ずつ帯同をお願いします。（チーム数は学校によって異なるため要相談）

演目解説

一般的に、子どもたちが映画を鑑賞するときは、「完成された映画を観る」という姿勢で映画を観ている。一方で別の映画の楽しみ方として、単に鑑賞者ではない、観ている人が脳内で映画をつくりあげる方法もある。しかし、そのように“映画を観ている「私」”を大切に、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」という姿勢で映画鑑賞をしている人は少ない。それは観る側にも力が必要なことであり、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような映画鑑賞における“主体的観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを体験できる機会が必要である。その発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。

メインプログラム（本公演）では、世界に誇る日本の名匠、小津安二郎監督の不朽の名作『お早よう』を上映し、鑑賞する。同世代の子どもが出演する作品を鑑賞し、子どもたちには『お早よう』の内容を振り返りながら、今の自分たちでも共感できることや、映画の画面に映っていた印象に残る色やモノ、映画に出て来た登場人物のセリフや関係性を振り返りながら、映画に対して能動的な姿勢を持ってもらうことを目指す。

ワークショップでは、iPad を使用して映画の撮影を体験する。ミッションカードを用いて、色々な角度や距離から映画を撮影できることを知る。映画撮影では、会話のシーンをきっかけにした4カット程度の短い1シーンの撮影・編集を体験する。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

大人は「手出し・口出ししない」が、子どもたちの創作にあたり、もっと面白くできるのではないかということ、映画をつくる立場の人として伝えることによって、子どもたちの創作意欲や映画に対する考えを深められるようにする。

児童生徒とのふれあい

撮影をする際に、チームを見守る大人に映画制作のプロを配することにより、子どもたちは「本気の映画人」と出会うことができる。